

西国巡礼慈悲の道

西国第一番 那智山

青岸渡寺

西国巡礼のすすめ

住職 高木亮享



本日は西国第一番札所・
那智山青岸渡寺によくお参
りくださいました。

那智山の歴史は仁徳帝の
頃、天竺僧・裸形上人が仏
教を流布するため渡来し、

熊野一帯を巡り那智大滝を
みつけ苦修練行の暁、八寸
の観音菩薩を感得し草庵を
結びお祀りしたのが開山に
なります。

その後二百年程たち、推
古天皇のとき奈良の生佛上
人が来山して、裸形上人の

話を聞いて四メートルの如

意輪観音を椿の霊木で刻
み、八寸の観音を胎内佛に
納め、推古天皇の勅願を仰
ぎ、はじめてお堂が建立さ
れたのであります。

長い歴史の中で役小角、
弘法大師、智証大師等が参
籠するなど、また、修験道
の道場として信仰が高ま
り、「蟻の熊野詣」といわ
れるほど多数の人たちで賑
わい、熊野三山の本地佛、
本宮は阿弥陀如来、新宮は

薬師如来、那智は観音菩薩
に現在・未来の二世にかけ
て願いをかけられたのであ
ります。

そうした中でも正暦年間
(990～994)、第六十
五代花山法皇が千日間那智
大滝の上に円成寺という庵
を結び修行し、満願お礼に
佛眼上人を導師に性空上
人、弁光僧正に案内され、
関西一円三十三観音霊場巡
礼参拝復興されたのであり
ます。このことを世の人達
が聞かれ、観音霊場を巡拝
する信仰が全国に広がり、
観音様が三十三身に化身さ
れ衆生を済度する数に因ん
で、那智山から谷汲山まで
千二百キロ、早い方で一月
半、普通春の彼岸から秋の
彼岸まで半年ほどかけて巡

礼されるようになったので
あります。廣大無辺の大慈
大悲のお力を与えられ、三
毒の煩惱から離^{はな}れ、一日一
日を一心に感謝・合掌ので
きる生き生きと不安のない
生活を送る為、巡礼が素晴
らしいと老若男女を問わず
多くの人からいわれ、自分
の心身の「行」として、ま
た、浄化反省する機会に
なったと存じます。



西国第一番

せいがんとじ
那智山 青岸渡寺(那智山)

天台宗

御本尊／如意輪観世音菩薩 開基／裸形上人

ふだらくや ^{きし}岸 ^{なみ}うつ波 ^{みくまの}は 三熊野の
^{なち}那智 ^{やま}のお山に ^{たき}ひびく 滝つせ



✽ 主な年中行事 ✽

- 1月1日～7日 修正会
2月節分 節分会 御開帳日
3月彼岸1週間 彼岸法要
4月第2日曜日 開山祭 御開帳日
8月17日夜7時 御詠歌
夜8時 御開帳日
9月彼岸1週間 彼岸法要
11月第1日曜日 七福大黒天神祭

❀ 観音風光 ❀

那智山で納経をお受けられた納経印の上に「普照殿」と書いています。

法華經の第二十五番目に観音經の偈文に出て来る「普明照世間」から取って普く明るく世間を照らすという意味で観音様の子供として、人の為、世の為に善いことをするという約束を本尊様に誓ったのであります。

是非観音様のみ子として御精進下さることを念じています。 合掌

ご詠歌の意味

「ふだらく」とは観音様がお住いの最高の場所で、浜辺に打ち寄せる波と沢山の参拝で、「三熊野の」は那智、新宮、本宮での賑わいであります。那智の大滝のひびく音と参拝者のお参りのお経の聲が那智のお山に響き渡っているとの意です。

〒649-5301 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山 8 番地

TEL 0735-55-0001 / FAX 0735-55-0757

納経時間 午前 5 時～午後 4 時30分

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。